

広報 もり 中部の森林



写真：紅葉を迎える岐阜城（岐阜署管内）

私の森語り「豊かな緑を次世代へ」
2025ミス日本みどりの大使 佐塚 ころこ

特集

- ・新局長 佐伯 知広 ご挨拶
- ・森林技術・支援センターの取組
- ・国有林野の保全・管理の取組

シリーズ

- ・現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

2025/No.256





新局長就任ご挨拶

中部森林管理局長 佐伯 知広

さえき ともひろ

十月一日付で中部森林管理局長に就任しました佐伯と申します。

よろしくお願いいたします。

また、長野県、富山県、岐阜県及び愛知県内の各行政機関をはじめ、中部森林管理局に関わる森林・林業・木材産業に携わる多くの皆様には、日頃より国有林の管理経営に特段のご支援、ご理解を賜っていることにつきまして、心より御礼を申し上げます。

私は、今回の就任のほか、平成四年に当時の松本営林署姫川治山事業所の主任、翌年に長野営林局治山課の係長、林野庁本庁での勤務をはじめ、平成十二年から南信森林管理署飯田事務所の所長として、計五年余り長野営林局・中部森林管理局で勤務させていただきました。林野庁職員として現場の基礎を学んだ局で三たび仕事をすることになり、

関係した皆様との縁を感じ、心強く思っています。

さて、飯田事務所での勤務から二十余年経過しています。当時は、公益的機能重視の管理経営への転換を図る、国有林野事業の抜本的改革が進められ、組織体制も大きく見直された時期でした。

飯田事務所も私が転出した二年後の平成十六年には、その役割を終えました。関係する皆様のご理解の下、改革の取組を進めた上で、更に平成二十五年からは国有林野事業が特別会計から一般会計に移行し、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、国有林の組織等が我が国の森林・林業の再生に貢献していくこととされました。

中部局は、ここ二十年余りの間に度重なる大きな改革を経験してきましたが、国民の要請と期待を踏ま

えつつ、管内の国有林を「国民の森林」として管理経営を行う役割が変わるものではありません。

ただ、森林・林業が多様な機能を有しているのと同じく、国民の要請が公益的機能の発揮を中心に多様となることは当然であり、数世代かかる森林づくりといかに調和して的確に伝えていくのか、古くて新しい課題です。

水源涵養や地球温暖化防止などの機能発揮に向けた森林づくりはもろろんのこと、激甚な山地災害が発生した場合は最優先で治山対策を進める必要がありますし、ウッドショックのような事態となれば国産材の供給調整機能の発揮が求められます。最近では、式年遷宮関係行事を契機として歴史的木造建造物や伝統文化の継承に貢献する役割も関心が高まっています。

こうした要請に対して、多様で健全な森林づくりを継続的に進める上で、中部局で培った森林・林業技術を引き継ぎ、発展させていくことが不可欠です。中部局ではこれまでの改革に伴い採用抑制が続いた期

間があり、職員数のギャップが生じています。ベテラン職員は知識や経験、若手職員は情報量や収集能力があり、双方の強みを活かしつつナレッジマネジメントを進め、組織全体の風通しを良くして技術力と活力につなげていくことが重要だと考えています。

地域の課題等に対して中部局がしっかりと向き合い、期待に応えた国有林の管理経営に地道に取り組んでいく所存ですので、関係する皆様忌憚のないご意見、ご助言をお願い申し上げます。

◆略歴 出身地 愛知県

平成三年四月

林野庁採用（森林整備部 治山課勤務）

平成二十九年四月

林野庁 森林整備部 治山課 山地災害対策室長

令和二年四月

林野庁 森林整備部 治山課長

令和四年四月

林野庁 森林技術総合研修所長

令和五年十月

独立行政法人 農林漁業信用基金理事

林野庁統一課題

「超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用」

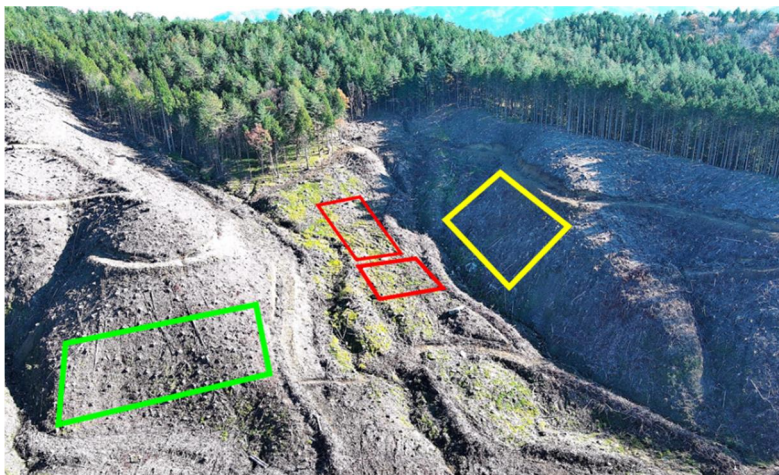
岐阜県下呂市に位置する中部森林管理局の森林技術・支援センターが取り組んでいる林野庁統一課題について紹介させていただきます。

◆林野庁統一課題とは

令和五年十二月に策定した新たな管理経営計画を踏まえ、国有林野事業で行う技術開発の方向や枠組みが見直されました。

統一課題とは、森林・林業施策全体の推進や国有林野を管理経営する上で特に重要と考えられる課題を、林野庁の出先機関の全局（北海道・東北・関東・中部・近畿中国・四国・九州）で統一的に取り組むために設定されたものです。

具体的には、植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いて育苗したエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果や、植栽適地等の検証を行うとともに、五年後の実用化を念頭に、再造林の低コスト化の可能性について検証することを目標に、各局で試験地の設定などに取り組んでいます。



3カ所の試験地に3種類のコンテナ苗を50本ずつ植栽（3カ所×3種類×50本、計450本）

中部森林管理局では、令和六年度に飛騨森林管理署マツ谷国有林（岐阜県高山市清見町大原^{おびろ}）に試験地を設定し、令和七年の秋に三種類のスギコンテナ苗を植栽できるよう準備を進め、岐阜県森林研究所の協力を得て土壌調査も実施しました。

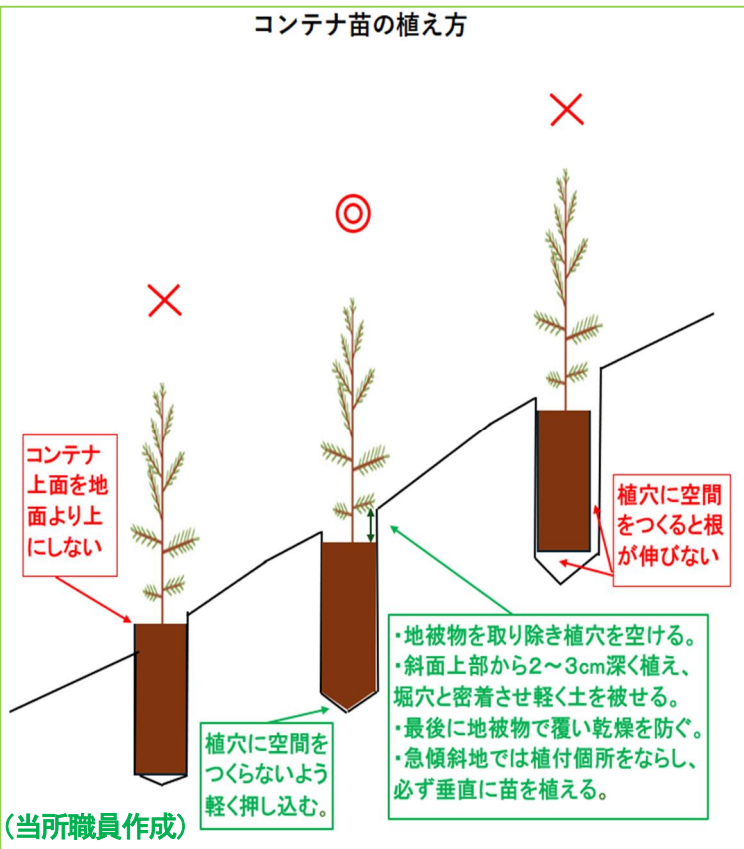
- 試験地に植栽するコンテナ苗は、花粉症対策苗（特定母樹※）、花粉症対策苗（特定母樹以外）の二種類の種から作られた、コンテナ容量百五十cc、苗高三十五cm以上のもので、比較対照種となる三種類の苗は、
- ① 岐阜県内で流通している苗
 - ② 五年以内に岐阜県内で流通を予定している特定母樹由来の苗
 - ③ 超緩効性肥料（七百日タイプ）を二ヶ所施肥した②の苗
- で、いずれも苗齢一年、下呂市内で生産されたものです。

なお、特定母樹由来のスギコンテナ苗の岐阜県内での植栽は、本試験地が初めての事例となります。



右から、①県内流通苗、②特定母樹由来の苗、③特定母樹由来に超緩効性肥料を施肥した苗

コンテナ苗の植え方



※ 特に優良な種苗を生産するための種穂の採取に適する樹木であって、成長に係る特性の特に優れたものを農林水産大臣が「特定母樹」として指定



林野庁HP ⇒

◆試験地への植栽

九月二日（火）、当所の職員七名のほか、飛騨森林管理署五名、インターンシップに参加している飛騨高山高校二年生一名、令和八年度に試験地設定を予定している岐阜森林管理署の四名、岐阜県森林研究所一名の協力を得て、試験地への植栽を行いました。

まず初めに当所の所長から現場の概要や役割分担を説明し、続いて職員から、ディブルを使用したコンテナ苗の植栽方法を説明しました。



ディブル(植え込み器具)の使い方を確認する参加者

また、作業時の体への負担軽減が期待できるアシストスーツの着用方法や、電動クローラ型二輪車の操作方法の説明及び実演を行った後、二班に分かれ、最初に飛騨署の職員が一輪車に載せたコンテナ苗や道具類を試験地まで運搬し、次に岐阜署の職員にも一輪車を使用したコンテナ苗の運搬を行ってもらいました。

その後、各試験地に運搬されたコンテナ苗を二人一組で丁寧に植栽していきました。



職員が支える程度で傾斜を登っていく電動式クローラ型一輪車



アシストスーツを着用し、コンテナ苗を植栽する飛騨高山高校インターンシップ参加者と職員

途中、作業を一旦休止し、民間会社による林業用運搬ドローン（最大搭載重量十五kg）を活用した苗木運搬のデモを見学しました。

二名の操作者が、二つのオペレーション機能が搭載された二台の送信機をそれぞれ操作し、五十本のコンテナ苗を三回に分けて、最も遠い試験地まで運搬しました。

出発点の操作者が試験地上空まで飛行し、操作を切り替えた後に、到達点に待機している操作者がコンテナ苗の入った吊荷を地面に着地させ、自動切り離しフックにより、遠隔操作で吊荷が空輸される様子を参加者全員が見届けました。

林業用ドローンの活用は、労働者の負担軽減に繋がることからも期待が持たれています。

午後からは、全職員で手際よく植栽し、予定時間より早く作業を完了することができました。

今後は、苗木の活着状況を確認し、令和十二年までの調査期間中に定期的に苗木の成長量調査を実施します。

苗木が順調に成長し、下刈りの省略化に効果が認められるなど、本試験地の調査結果が五年後の実用化に繋がることを期待しています。



到達点に待機してドローンを遠隔操作する操作者



ドローンによりコンテナ苗を運搬する操作者

◆参加者からの声◆

次の項目について、参加者のみなさんに感想等を聞いてみました。

電動クローラ型一輪車

- ・ 運転操作が簡単なのが良い。
- ・ 思ったよりパワフルで扱いやすかった。
- ・ キヤタピラーが地面をしつかりと捉えてくれるため歩くというよりも地面を滑るようになり進む感覚だった。

アシストスーツの着用

- ・ 腰から股関節にかけて固定されるため腰を痛める可能性が減ると感じた。
- ・ 腰のあたりにゴムの様な素材が軽く支えてくれる感覚だった。

林業用運搬ドローン

- ・ 苗木運搬の効率化及び労力軽減において非常に有効と感じた。
- ・ 早く苗木等の資材を運搬できるので長距離・急傾斜な現場には有効な輸送手段だと感じた。

ディブルを使用した植付け作業

- ・ 初心者でも使いやすく、非常に効率的と感じた。

- ・ 二人一組体制により効率よく植付け作業を進めることができた。
- ・ 穴あけも容易にでき、苗木の植え込みもジャストサイズで想像していたよりも簡単に植えられた。

その他（気づいた点を何でも）

- ・ 改めて、夏日の造林作業の大変さを体験した。
- ・ 林業用運搬ドローンや電動式クローラ型一輪車の普及やエリートツリーコンテナ苗導入による下刈り作業等の省力化など、現場作業の負担軽減・作業効率の大幅な向上や安全性の確保が必要だと改めて実感した。

◆今後に向けて◆

当日は、炎天下の中、改めて造林作業の厳しさを体験し、不慣れな作業も経験し無事に完了することができました。

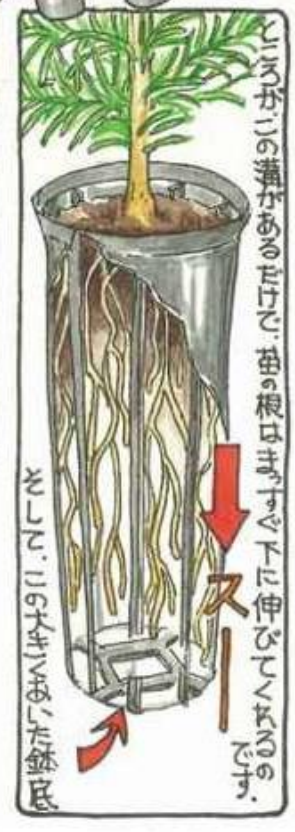
参加者からのアンケートの声や現場での意見を踏まえて、今後の成長量調査や令和八年度に向けての新たな試験地設定を確実に進めていくこととします。

【森林技術・支援センター】

※次ページにコンテナ苗について

紹介した漫画を掲載しています。

コンテナ苗(林野庁 HP より)



コンテナ苗(林野庁 HP より)



国有林野の保全・管理の取組 ～植生荒廃等の防止と境界管理～

中部森林管理局の保全課では、国有財産の管理・処分、国有林野の活用、森林の保護など多岐にわたる業務を担っていますが、今回は、その中から、グリーンサポートスタッフの活動と、国有林野の境界管理の取組について紹介します。

GSSSによる森林保護活動

中部局では、春から秋までの登山者や観光客が増える時期にあわせて、利用の集中化に伴う植生荒廃等を防止し、貴重な森林生態系の保全するため、「森林保護員（グリーンサポートスタッフ）通称：GSSS」を雇用しています。

GSSSの活動は、多くの人が訪れる山岳地帯において、不法投棄や高山植物の採取などを防止するための巡視や、マナーの啓発活動を行う

ほか、登山者の安全を守る取組として、標識や歩道の簡易な修繕なども行っています。

今年度、各地域で行われたGSSSの活動から、その一部を紹介します。

◆富山森林管理署

北アルプスの立山・宇奈月地域において、五十年以上活動を継続する高山植物保護。パトロール隊員と連携し、ライチョウ保護の啓発活動を行っています。



立山(室堂平)における注意看板の補修(富山署)



宇奈月(旭岳)での規制用ロープの点検(富山署)

◆北信森林管理署

多くの観光客が訪れる戸隠・黒姫地域や、ブナの原生林が広がるカヤノ平自然休養林内において、散策路沿いの木に樹名板を設置しました。



戸隠森林植物園内での樹名板の設置(北信署)

◆中信森林管理署

年間百万人以上が訪れる上高地や三六〇度の大パノラマが広がる美ヶ原地域において、高山植物等保護対策協議会や環境省、地元自治体と協力して、パトロールや啓発活動を行っています。乗鞍地域では隣接する飛騨署とも連携を取りながら活動しています。



啓発カードによる親子への注意喚起(中信署)



上高地におけるクリーン活動(中信署)



植生回復のためのマット敷設(南信署)

◆南信森林管理署
ロープウェイで標高二、六一一
メートルまでたどり着ける、中央アルプ
スにおいて、登山道のロープ張替
えや看板の修繕を行いました。ま
た、千畳敷カールや登山道沿いに
広がる高山植物の保護と植生回復
のため、植生保護マットの敷設な
ども行っています。



標識看板の修繕(南信署)



規制ロープ用の杭の交換(東信署)

◆東信森林管理署
湯の丸・高峰自然休養林を中心
とした地域において、登山道の補
修や規制ロープの張替、池の平湿
原に続く散策路では、木道の補修
などを行いました。



散策路の木道の補修(東信署)

<p>北アルプスGSS活動報告 【南信森林管理署】</p> <p>北アルプス</p>	<p>戸隠・黒姫GSS活動報告 【北信森林管理署】</p> <p>戸隠・黒姫</p>	<p>カヤの平GSS活動報告 【北信森林管理署】</p> <p>カヤの平</p>
<p>上高地GSS活動報告 【中信森林管理署】</p> <p>上高地</p>	<p>美ヶ原GSS活動報告 【中信森林管理署】</p> <p>美ヶ原</p>	<p>乗鞍GSS活動報告 【中信森林管理署】</p> <p>乗鞍 (中信)</p>
<p>中央アルプスGSS活動報告 【南信森林管理署】</p> <p>中央アルプス</p>	<p>湯の丸・高峰GSS活動報告 【東信森林管理署】</p> <p>湯の丸・高峰</p>	<p>金華山GSS活動報告 【岐阜森林管理署】</p> <p>金華山</p>

◆岐阜森林管理署
岐阜市中心部に位置し、都市近郊
林として親しまれ、利用者の多い金
華山地域において、山火事予防の啓
発や注意喚起を行い、あわせて、登
山道沿線に設置している防火用水
槽の点検やバケツの交換なども行
っています。
GSS活動については、ホームペ
ージで随時公開しておりますので
是非ご覧ください。



登山道沿線に設置された防火水槽(岐阜署)

GSS便りには、活動の様子だけでなく、活動の
合間に撮影した各地の風景や植物なども掲載さ
れており、春から秋へ移り変わる季節の様子を
感じることができます。アクセス道路の通行止め
により、令和7年度は天生地域(飛騨署)での活
動が休止となっていました。来年度以降にご期
待ください。



境界の管理・保全の取組



長野市街地に隣接した朝日山国有林と民有林との境界

中部局では、富山・長野・岐阜・愛知の四県にある約六十五万五千畝の国有林を管理しています。この国有林と接する民有地との境界線の総延長は約七千キロに及び、日本列島(北の宗谷岬から最西端の与那国島まで)の長さの二倍に達します。その境界線上に設置している民有地との境を示す境界標は約二十四万点あり、平均すると三十センチに一点の間隔で設置されていることとなります。

国有林では「境界」＝「けいかい」と呼んでいますが、境界の保全は、森林の適正な管理・保全を行う上で極めて重要な役割を果たすとともに、隣接する民有林における境界の確定等にも役立てられています。



各森林管理署等では、日頃から森林官を中心に、境界の巡検や巡視などを行い境界標の保全・管理に努めています。中には不明となつているものや、傾斜したり折れてしまつているもの(異常標といいます。)も多数存在しています。



研修の様子:不明標解消(新たな境界標を設置)

これらの不明標や異常標の解消に当たっては、請負等によるほか、職員自らが測量し、復元を行う取り組み(境界検測作業)も進めています。復元のための測量には、専門的な知識と技術を要することから、毎年研修を実施し、技術者の養成と技術の継承に努めています。

【保全課】



研修の様子:トータルステーションによる測量

シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【愛知森林管理事務所】

豊橋森林事務所

森林官 長屋 和幸

豊橋森林事務所は、愛知県南東部の豊橋市に所在しています。愛知と静岡の県境に位置する豊橋国有林をはじめ、新城市や岡崎市に点在する七つの国有林約二千三百六十haを、森林官と非常勤職員二名のあわせて三名で管理しています。

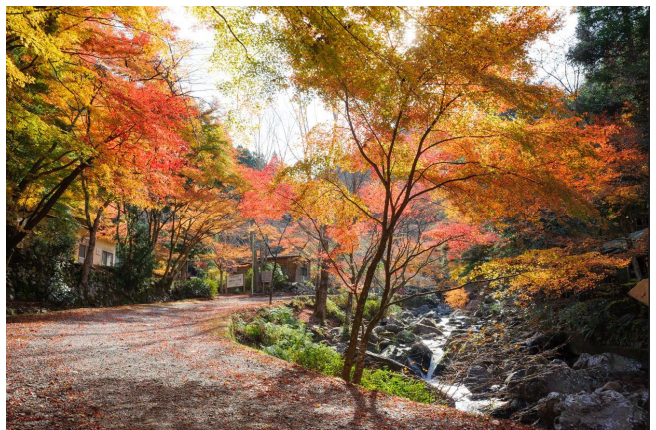
市街地に近い都市近郊林である豊橋国有林の標高は約五十haから四百ha、林内には豊橋市が整備した自然歩道があり散策者が多く訪れています。隣接する葦毛湿原には、環境省のレッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として掲載されているミカワバイケイソウやシラタマホシクサなど貴重な植物が群生し、国の天然記念物に指定されています。

市街地に近い国有林では境界が不



豊橋自然歩道から展望した豊橋市市街地

明な場所についての問い合わせが多くあります。不法投棄が多いため、その対策としてパトロール強化や看板の設置により注意喚起しています。また、全国で行われている530大会の発祥地である朝倉川530大会へ参加しゴミ拾いと回収を行っています。



日本美しの森お薦め国有林に選定された「くらがり溪谷」

岡崎市にある「くらがり」には、『日本美しの森お薦め国有林』として選定された「くらがり溪谷」があります。四季折々に変化する森林や紅葉が綺麗な溪谷として有名で、森林浴のほかキャンプ、釣り、マスのつかみ取りなどを行う家族連れでにぎわっています。

国有林のほとんどがレクリエーションの森に指定されていることから、森林事務所では、国民の皆様が安全で快適に利用できるようパトロール

しています。その他に国有林と民有林との境界を確認する境界巡検、立木調査、間伐作業等請負作業地の確認や監督・指導を行っています。また、国有林野を活用したい方に対する土地の貸付業務などもあります。

■未来の担い手へのメッセージ

国有林は、所在する地域によって様々な特徴があり業務内容も多種多様です。林業は近年、新しい技術も導入され機械化、IT化も日々進化していますが、長い目で見て自然豊かな森林を未来につないでいくため、一緒に森づくりをしてみませんか。



森林事務所職員(右端が筆者)

シリーズ

私の森語り
もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介いたします。



「豊かな緑を次世代へ」



2025 ミス日本
みどりの大使
佐塚 ころ

■自己紹介

みなさんこんにちは！

二〇二五ミス日本みどりの大使の佐塚ころです。一年間を通して全国各地で森林や林業について学び、その魅力や重要性を広く発信する活動を行っています。

みどりの大使は、自然と人、そして林業の世界をつなぐ架け橋として、森林の価値をわかりやすく伝える役割を担っています。

私は長野県出身で、幼い頃から緑豊かな山々に囲まれた環境で育ちました。小学生の時には「緑の少年団」に所属し、しいたけの駒うちや植樹などを通して自然と触れ合う喜びを学びました。これらの経験が、今の活動の礎となっています。

■活動内容

各地域で開催される森林イベントでは、全国の緑の少年団の子どもたちと交流する機会が多くあります。共に植樹や木工体験を行う中で次世代に森を受け継ぐ意識の芽生えを感じます。未来を担う子どもたちの真剣な表情に触れるたび、森を守り伝えていく活動の意義を改めて実感いたします。

緑の募金の呼びかけ活動で特に記憶に残るのは、四月から五月の「みどりの月間」に合わせて、総理大臣へ緑の羽根の着用をお願いしたことです。募金が森林整備や災害防止、環境保全に活かされていることを伝え、少しでも多くの方に、緑



緑の羽根をつけた石破総理(当時)とともに

の募金について知ってほしいという気持ちで総理の前に立ちました。

また、式典や講演会での司会進行を務める際には、登壇者の方々による森林関係の講演を拝聴する機会もあり、森林政策や利活用、地域の課題の現状などを学ぶ貴重な機会となっています。司会という立場を超えて、自身の学びにもつながる時間です。

最も記憶に残っている出来事は活動の前半期に山梨県を訪れ、林業の「川上」から「川下」に至るまでを視察したこと。苗木が作られる前の種の段階から見学し、伐採加工に至る一連の過程を通じて、一本の木が生活の中に活かされるまでには多くの人の手と年月が関わっていることを実感し感銘を受けました。特に、種から苗を育てる生産者の方々が「新しいことに挑戦するにはリスクが伴う。だからこそ、成功した時の喜びは大きい」という言葉でやりがいと表現していたことが印象に残りました。こうした実際に現場に携わっている方々の声を聞き、私もその一員となって発言をすることを心がけています。

私が最も力を入れた活動は、私の地元である長野県で盛んな「キノハナ」作りです。木のかんなくずを使って造花を制作するクラフトの資

格(キノハナワークショップマイスター)も取得しました。見た目に美しいのはもちろん、木の香りやぬくもりをそのまま感じられる魅力があります。現在は「キノハナワークショップ」を各地で開催し、木の魅力を多くの方と共有しています。

■メッセージ

森林は、私たちの生活を支えるとともに、心も癒してくれる存在です。そして、その豊かさは日々の管理や保全に携わる多くの方々の努力によって守られています。これからも自らの目で見て感じたことを丁寧に発信し、森の価値を多くの方々に伝えていきたいです。そして、この日本の豊かな森が次の世代へと受け継がれていくことを心から願っております。

■連絡先

一般社団法人ミス日本協会
〒一六〇〇〇一三三
東京都新宿区西新宿二一二一
京王プラザホテル南館
九階



山梨県の林業視察での施設見学
林業の出発点にあたる苗木生産者の方から、種から苗木を育てるまでの作業の工程や出荷するまでの苦労などをうかがいました。「新しいことに挑戦するにはリスクが伴う。だからこそ、成功した時の喜びは大きい」という言葉でやりがいを感じて表現していたことがとても印象に残りました。



サッカーAC 長野パルセイロホーム会場での緑の募金活動
子どもたちと一緒に呼びかけを行い、多くの方が募金に応じてくださいました。「緑の募金は何に使うのですか？」と聞かれた際に、子どもたちがしっかりと、「森を守るために使われます」と答えていたのはとても嬉しい場面でした。

キノハナワークショップでの一コマ
木のかんなくずから作られる「キノハナ」の作り方を学び、講師の資格となる「キノハナワークショップマイスター」を取得して初めて教えた時の様子です。作り方のコツをうまく伝えるだけでなく、子どもたちを楽しませることを最優先して進めました。みんな笑顔で取り組んでいました。

令和 7 年度茨城県緑の少年団交流集会
プラトールさとみ（常陸太田市）



茨城県緑の少年団のみなさんと記念撮影！
私もかつては「緑の少年団」で活動していました。

みどりの大使の佐塚さんは、3月に中部局を訪問、4月下旬に「1日中信森林管理署長」として、上高地の開山祭に参加されました（中部の森林 252・253 号及び各地からの便り参照）。全国各地を訪問し、緑の大切さを発信する様子は、林野庁が発行する情報誌「林野」に紹介されています。

情報誌「林野」はこちら →



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 51 回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「姫路城心柱用材」その一

国宝や世界文化遺産として知られる姫路城の天守閣は江戸時代初期の建築物ですが、老朽化や昭和初期の豪雨災害により昭和十年代から根本的な修理工事が必要とされてきました。戦争による中断をはさんで昭和三十一年より天守の解体・修復工事が着手されましたが、後世ではこれを特に「昭和の大修理」と呼んでいます。



姫路城天守閣（兵庫県／戦前の絵はがきより）

天守の解体を進めたところ、城を支える二本の巨大な「心柱」のうち、西の心柱が芯から腐朽して再利用が不可能であることが発見されました。このため替わりの心柱用材となる巨木探しが始まる事となり



昭和 30 年代当時の加子母真木曾国有林

ました。耐久性も考慮して根元直径一級・長さ二十五メートル以上の曲がりの無いヒノキが求められたのですが、それほどの巨木を探すことは容易ではなく関係者は全国を飛び回る事となりました。各地で幾つか候補は挙がったものの木の空洞・曲がりや伐採許可の問題で決定せず、巨木の森として知られる「出ノ小路」（現在の東濃森林管理署加子母真木曾国有林／第三十九回参照）に最後の期待が懸けられることとなりました。

昭和三十四年の年明け、まだ雪がある時

季にも関わらず、工事の期限に迫られる関係者達によって巨木探しの大捜索が行われました。捜索の甲斐あって二月半ばには候補となる巨木が見つかったのですが、実はこの木の内部には腐れがあり、伐採途中であえなく崩れ落ちてしまったそうです。このため再度の捜索が行われ、五月に入ってからようやく心柱に適した巨木の発見に至りました。（このヒノキ巨木の写真は第三十九回参照）

こうして苦勞の末に発見されたヒノキ巨木は昭和三十四年五月十九日に、神宮用材を手掛けた経験もあるベテランの柚達によって伐採されました。



伐採される心柱用材

斜面に倒された心柱用材

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、下記コードを読み込んでください。



人為が加わって成林した

木曽ヒノキを主とした林

油木沢ヒノキ希少個体群保護林

設定目的

「人為が加わって成林した、典型的な木曽ヒノキを保護する」ことを目的としています。

地況・林況

御嶽山南東の谷沿いに位置し、人為が加わって成林したヒノキ林として維持管理されてきた樹齢300年を超える木曽ヒノキ個体群です。

ヒノキが優占し、サワラ、ミズナラ、カンバ等から構成される針広混交林となっています。

人為とは…自然の状態に人が手を加えること

シリーズ

中部の保護林(第51回)



所在地
長野県木曽郡木曽町

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612

各地からの便り

とやま森と木のフェスタ2025

【富山森林管理署】

十月十一日、富山県射水市いみすの県民公園太閤山ランドにて「つなげよう育てよう 小さな小さな緑の命」をテーマにイベントが開催されました。

式典では二〇二四ミス日本みどりの大使の安藤きらりさんが司会を務める中、表彰式や記念植樹などが行われました。

会場では県内外の関係機関による展示・販売等があり、当署からも木工クラフトの体験ブースを出展し、多くの家族連れで賑わいました。



抱っこされて工作の様子を眺める子ども



職員がミニ椅子作りの手順を説明

第七十二回下呂市みどりの祭

【岐阜森林管理署】

十月十九日、下呂市皇樹の杜にて「健全で活力ある森林を育て次の世代に引き継ぐことの大切さを伝える」ためにみどりの祭が開催されました。「ねんりんピック岐阜2025」のオリエンテーリング競技との同時開催だったこともあり、多くの来場者が訪れました。

当署からは、自由に工作する木工クラフト、ミニ椅子作り、ネームプレート作成の三種類を用意して出展しましたが、当日は時折小雨の降る中でしたが、百名近い来場者が訪れ、子どもから大人まで笑顔で工作を楽しんでいました。

林業労働力軽減のための

車両機械等の実演会

【愛知森林管理事務所】

十月二十二日、愛知県設楽町したら内の段戸国有林にて、作業現場での負担軽減が期待される機械等の実演会を行い、雨天の中、市町村職員や猟友会員など約二十名が参加しました。

ニホンジカ等を捕獲して林道まで運び出すための「自動冷却搬送機」や急傾斜の造林地へコンテナ苗等を運搬するクローラタイプの自動一輪車の操作体験のほか、東海農政局の職員から、事業者が「自動冷却搬送機」の導入を検討する際の資金面での支援制度について説明が行われました。操作体験した参加者からは、新たな改良点

や工夫についての意見が出されるなど有意義な会となりました。



自動冷却搬送機を操作する参加者

各地からの便りは、ホームページへ詳細を掲載しておりますのでどうぞご覧ください。

各地からの便り



広報「中部の森林」256号
発行:林野庁中部森林管理局
編集:総務企画部 総務課 広報



〒380-5875 長野県長野市栗田 715-5
電話:026-236-2531
<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu>

メールマガジンへ登録いただくと、広報「中部の森林」の発行日にURLを配信します。
(奇数月の発行を予定)
メールマガジンの登録サイト
<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry> において
配信を希望するメールマガジンの中から
中部森林管理局広報「中部の森林」を選択して下さい。